

## 17世紀東アジア史の展開と特性

### —韓国史の展開を17世紀の世界史の中でどのように眺めるか

趙珖（韓国国史編纂委員長）

#### 発表要旨

---

世界史的に17世紀は、危機の時代と考えられている。アジア史でも危機論に立脚した研究が行われている。しかし、東アジア史の展開様相を具体的に見てみると、そのような理論が必ず適用されるとは考えにくい。当時、朝鮮では、戦乱の後、強い回復論が生まれた。政治的、社会的、思想史的に国を蘇らせる（再造）ための新しい構造を作ろうとする動きが強く発生していたのだ。理想的な社会改革案が積極的に議論されて活発な改革案が提示され、このような流れは、「実学」につながった。新しい秩序のための悩みは、政治的、社会的にも時代を導いて、長期間の議論構造を作った。そして、外交的にも様々な対応方式を作り出した。これは朝鮮が危機を乗り越えて、新しい時代に進入できるようにした動力だった。日本史と中国史の様相も自国史と関係史の視点をすべて動員してこの時代を眺めるならば、より発展的な歴史の中で描くことができている。

#### 略歴

---

〈조 광/趙珖/Cho Kwang〉

1945年韓国ソウル生まれ。朝鮮時代の思想史、史学史、関係史を専攻。高麗大学校で文学博士を取得。東国大学校国史教育科教授、高麗大学校韓国史学科教授・文科大学長・博物館長、延世大学校碩座教授、韓日歴史共同研究委員会委員長、韓国史研究会会長を歴任。現在、高麗大学校名誉教授、ソウル特別市史編纂委員会委員長。主な著作：『朝鮮後期社会の転換期的特性』『朝鮮後期社会の理解』『韓国史学史の認識と課題』『朝鮮後期天主教史研究』など。

